



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

—平成30年度総集編—



連載



公益財団法人

日本スポーツ協会

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについては以下から
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

連載

<みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント>

2020年に向けて様々な取り組みが行なわれているオリンピック・ムーブメント、パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介しました。

● 第138号 (平成30年5月21日発行)

未来につながる「東京2020参画プログラム」

全国から東京2020大会を盛り上げよう 2

● 第139号 (平成30年7月20日発行)

一般社団法人いわしろふれあいスポーツクラブ 7

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 12

● 第140号 (平成30年9月20日発行)

NPO法人ふれ・スポ・とうべつ 16

しろやま倶楽部 21

● 第141号 (平成30年11月20日発行)

岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 26

NPO法人スポーツアカデミー 32

● 第142号 (平成31年1月21日発行)

beyond2020マイベストプログラム 36



連載

みんなで盛り上げよう！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

未来につなげる【東京2020応援プログラム】



～全国から東京2020大会を盛り上げよう～



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、2020年に向けてオールジャパンで取り組む参加型のプログラムである「東京2020参画プログラム」（以下「参画プログラム」という。）。2016年10月から開始された同プログラムは、図1のとおり、「東京2020公認プログラム」（以下「公認プログラム」という。）と「東京2020応援プログラム」（以下「応援プログラム」という。）に分けられ、2017年7月からは、「応援プログラム」の対象を全国の非営利団体等に拡大し、全国の総合型クラブも、「応援プログラム」に申請できるようになりました。

そこで、今回は、同プログラムを所管する公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）企画財務局アクション＆レガシー課スポーツ・健康チームの皆様から、全国の総合型クラブが申請できる【応援プログラム】の概要や魅力、活用方法についてお話を伺いました！

<2つのプログラム>

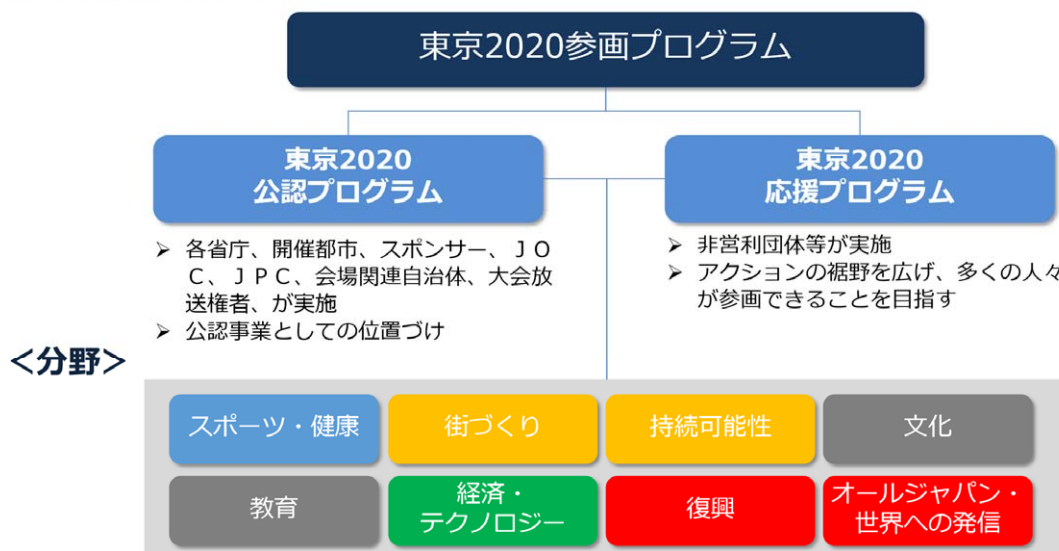


図1【出典：東京2020参画プログラムについて（2017年1月：組織委員会）】

●参画プログラムとは

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン
「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト
「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

●「応援プログラム」として認証されることで、クラブ・地域に様々な効果を創出できる

例えば、総合型クラブで「健康寿命の延伸を目的とした健康運動教室」を組織委員会に申請し、「応援プログラム」として認証された場合、どのようなことができるのかを紹介します。※1

「応援プログラム」として認証された事業は、図2の東京2020応援マークを使用することや、「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することができます(一部使用制限あり)。※2
つまり、「応援プログラム」として認証されることで、東京2020大会とのつながりができ、地域の方々に対し、クラブの存在やクラブの事業をPRできる他、東京2020大会の機運醸成に貢献したという実績となります。また、地域の複数のクラブや自治体等の他団体と連携したイベント等を「応援プログラム」として実施することで、地域のつながりの強化や地域の未来を共に考えるきっかけづくりとなる可能性もあります。

もしかすると、クラブの関係者や会員さんの中には、「オリンピック・パラリンピックに関わりたけれど、地方だから難しい・・・」等とされている方もいらっしゃるかと思います。そのような方が、「応援プログラム」として認証されたクラブの教室やイベントに参加したり、ボランティアとして活動したりすれば、たとえ東京に行かずとも、東京2020大会に参画したと言えるのではないのでしょうか。

※1 応援プログラムの具体的な申請方法については、[コチラ](#)

*日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会加入クラブにおいて、日本スポーツ協会を通じた「東京2020応援プログラム申請前手続き」を希望した団体に対しては、後日、都道府県総合型クラブ連絡協議会を通じて申請方法をご案内いたします。

※2 応援マーク等の使用に係る留意事項等については、[コチラ](#)



図2【東京2020応援マーク】

●「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限らない

「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限りません。図1の8つの分野にてそれぞれ設定されているレガシーコンセプト※3のいずれかに合致する取組であれば認証しております。例えば、公益財団法人横浜市体育協会は、「応援プログラム」として、図3のとおり東京2020大会開催1000日前に千羽鶴を作るというイベントを実施しました。これは、1964年の東京オリンピックの競技会場となった横浜文化体育館において、大きな「2020」年モニュメントを作り、日本の文化で世界に向けて東京開催を盛り上げるというコンセプトのもと実施しており、8つの分野の中の「文化」分野にて「応援プログラム」として認証されています。

また、「応援プログラム」として、「障がい者スポーツの体験会」や「障がい者スポーツの観戦ツアー」等を実施している団体もあります。

既に全国各地で多くの団体等が様々な「応援プログラム」を実施しております。ぜひ下記URLから全国の「応援プログラム」の事例をご覧ください、「応援プログラム」を活用するうえでの参考としてください。

★全国の参画プログラムについては、[コチラ](#)

※3 8つの分野におけるレガシーコンセプト等については、[コチラ](#)



図3【応援プログラムに参画した方々が作成した鶴を、横浜文化体育館に集め、フロアに「2020」の数字を描いた】(提供：公益財団法人横浜市体育協会)

★その他プログラムのご紹介★

「公認プログラム」～都市鉱山からつくる！みんなのプロジェクト～

東京2020大会のメダル約5000個を都市鉱山である携帯電話など使用済み小型家電から制作する大会史上初めての試みとなるプロジェクトです。www.toshi-kouzan.jp/

「特別プログラム」2020応援プログラム(祭り)

日本の伝統文化である祭りを通して、東京2020大会の機運醸成・盛り上げにつなげるための特別プログラムとして東京2020応援プログラム(祭り)を作りました。特定の企業や商品をPRする目的ではなく提供される飲食・物販(屋台等)は可能となっており、また「祭り」用の特別マークを用意しています。あなたの街のお祭りを応援プログラム(祭り)にぜひ申請してください。

詳しくは組織委員会HPの「祭り」ガイドライン(2018年度版)をご確認ください。

https://participation.tokyo2020.jp/jp/data/matsuri_guideline_201803.pdf

●クラブの既存の取組が「応援プログラム」として申請できる

総合型クラブは、特に「スポーツ・健康」分野にて、既に実施しているスポーツ・健康教室等を「応援プログラム」に申請することができます。

もしかすると、「応援プログラム」に申請するために、新規事業を考えようとする方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、例えば「スポーツ・健康」分野のレガシーコンセプトの一つとして、【誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現】があり、対象となる取組内容には、「スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展」や「スポーツ(運動)の力による健康づくりの推進」等が掲げられています。

つまり、多くのクラブが普段から実施している教室やイベント等が、まさに「応援プログラム」に申請できるのです。

また、昨年度の日本スポーツ協会メールマガジンの連載企画でも取り上げられている「英会話教室」や「ゴミ拾い活動」は、「教育」や「持続可能性」の分野にて「応援プログラム」に申請いただけます。

応援プログラムとして考えられる取組例

競技体験会		ボランティア養成	
クラブ独自の競技体験会開催(1日疑似体験)		主催イベント等におけるボランティア養成(英会話等)の講習会等を実施	
参加国の応援	合宿国の応援・交流	地域の文化の発信	
応援メッセージの作成 (クラブ会員一人一国応援運動)	クラブイベントへの招聘	地域独自の文化を全国・海外に伝える	
トップアスリート(オリンピック等)との交流事業		次世代アスリートの発掘・育成事業	
主催イベント等におけるアスリートの派遣・交流		交流大会やイベント、体験会等を通じた発掘・育成	
障がい者スポーツの導入	障がい者スポーツ指導者養成	パラリンピアンとの交流事業	
障がい者団体等との連携事業 (健常者と障がい者の交流)	障がい者スポーツに係る講習会の実施	パラリンピアン派遣による教室、イベント等の実施	

●総合型クラブの日々の取組がレガシーになる

東京2020大会を契機に、色々な形でスポーツに携わりたいと考える方々が増えると思います。例えば、ボッチャの試合をテレビで見て、ボッチャをやってみたいと思う方がいたときに、地域でボッチャができる場所があることは素晴らしいことではないでしょうか。

また、スポーツに限らず、例えば、「ゴミ拾い活動」は、地域で今すぐにでも取り組める活動です。東京2020大会をきっかけに「ゴミ拾い活動」を実施し、その取組を大会後も継続的に実施することでレガシーとなります。

総合型クラブは、それぞれ様々な特色を持つことから、8つの分野における「スポーツ・健康」のみならず、「文化」「教育」「持続可能性」等、多くの関わりを持てるという強みがあります。全国の総合型クラブが「応援プログラム」に申請することにより、東京2020大会への機運醸成への大きなムーブメントとなるとともに、総合型クラブの存在が、大会コンセプトにある「未来への継承」につながることを期待しております。

●「参画プログラム」の今後の展望

「参画プログラム」は、「応援プログラム」「公認プログラム」を合わせ、現在、1400団体に4万件の「プログラム」が実施されており、全国で3000万人を超える方々が参加するプログラムとなっています。

今年は大会マスコットの正式発表、大会ボランティア募集、チケット販売開始、2年前・500日前イベント等、大会に向けて多くの行事を予定しています。

日本全国の皆さまの多くの参画により東京2020年大会へのワクワク感を一緒に作りあげていきましょう！ぜひオールジャパンでの大会成功に向けご協力をお願いします。



今回お話を伺った組織委員会の方々
写真左から/斎藤秀美氏、佐々木啓二氏、藤田善三氏、村田清顕氏



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



一般社団法人 いわしろふれあいスポーツクラブ ＜福島県二本松市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、一般社団法人いわしろふれあいスポーツクラブが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

障がい者スポーツ体験教室

実施日時	平成29年11月2日(木)、15日(水)、29日(水)、12月5日(火)
実施会場	二本松市立小浜小学校の体育館・視聴覚室
参加者数	11/2(木) 5年生37人、6年生25人 11/15(水) 4年生32人、3年生32人 11/29(水) 5年生36人、6年生25人 12/5(火) 1年生29人、2年生20人
主催	うつくしま広域スポーツセンター(現 ふくしま広域スポーツセンター)
主管	(一社)いわしろふれあいスポーツクラブ
協力	福島県障がい者スポーツ協会、福島県障がい者スポーツ指導者協議会 二本松市立小浜小学校



1 企画経緯

障がい者のスポーツ環境整備の受け皿として連携事業を開始

うつくしま広域スポーツセンターより、地域の障がい者スポーツの機会や場の提供に関する連携事業のお話をいただきました。当クラブが、地域の障がい者のスポーツ環境の受け皿になることができるのではないか、受け皿にならなくてはいけないのではないかと考えていた時期に、お話をいただいたこともあり、連携事業をお受けすることにしました。

「障がい者スポーツを地域で...、何をどう進めればよいのか...。」まずは、うつくしま広域スポーツセンター、福島県障がい者スポーツ協会、当クラブによる三者ミーティングを開催していただきました。ミーティングを進める中で、福島県障がい者スポーツ協会側から、同協会ではなかなかカバーできていないのが、小学校の支援学級の子ども達であるという話が出ました。「例えば、体育科の授業の支援に入らせてもらい、支援学級の子ども達を支援することはどうか」という声も上がりました。

支援学級だけでなく全校生徒が障がい者スポーツを体験

二本松市生涯学習課に事業を説明し、課長のご協力を得た上で、二本松市立小浜小学校にご相談に行きました。校長先生の最初の答えは『NO』でした。学校教育の現場で、特定の子どもだけを対象にはできないという、ごもっともな理由でした。

しかし、「せっかくの機会ですし、方法を探りましょう」という校長先生から温かいお言葉をいただきました。話し合いを進める中で、リオパラリンピックで障がい者スポーツ種目のボッチャ日本チームがメダルを獲得したことが話題になり、そこから話しがどんどん進みました。

「障がい者スポーツの数種目を全校生に体験させてあげられないだろうか」

「障がいがあっても無くても、一緒にスポーツを楽しむことができるという体験をさせてあげたい」

「この先、子ども達が成長していく過程で、もし障がいがある方と出会った時に、自然に言葉を掛けたり、手を差し伸べられる人になって欲しい。そんな心を育ててあげたい」

校長先生からは、上記のような提言が出たほか、「心を育てる勉強にもなりますが、体育科の授業の時間でもあるので、ある程度の運動量は欲しい」とのご意見もありました。

2 実施内容

11/2(木) 2校時...5年生『シッティングバレー』

3校時...6年生『シッティングバレー』

11/15(水) 2校時...4年生『講義』福島県障がい者スポーツ協会 増子恵美氏

〃

丸山内雄大氏

※パラリンピック公式教材を使用した講義

3校時...4年生『ボッチャ、ゴロバレー(シッティングバレー)』

4校時...3年生『ゴロバレー(シッティングバレー)』

11/29(水) 2校時...5年生『ボッチャ』

3校時...6年生『ボッチャ』

12/5(火) 2校時...1年生『風船バレー(シッティングバレー)』

3校時...2年生『風船バレー(シッティングバレー)』

シッティングバレーやボッチャは、各学年の運動適応能力に合わせて、ボールを変えたりルールを少し優しくしたり、楽しく運動できるように工夫しました。ウォーミングアップは、座ったままの鬼ごっこをして楽しく運動できました。

【実技指導の講師】

福島県障がい者スポーツ協会

増子恵美さん

〃

丸山内雄大さん

福島県障がい者スポーツ指導者協議会

伊達孝浩さん、眞田博史さん

〃

遠藤宣夫さん、黒澤淳子さん

シッティングバレーアスリート

佐藤浩さん、鈴木敦さん

いわしろふれあいスポーツクラブ

藤野美緒 クラブマネジャー

〃

藤代純子 アシスタントマネジャー

・増子恵美さん

パラリンピアンで、車椅子バスケットボールで活躍されました。

シドニーパラリンピックで獲得した銅メダルを子ども達に見せてくれました。

・シッティングバレーアスリートの佐藤さんと鈴木さん

お二人とも車椅子。低学年の女子から「どうして足を無くしてしまったんですか？」という質問に、「事故で足を無くしてしまった。最初の頃は辛かったけど、パラスポーツに出会ったおかげで楽しくスポーツができるし、仲間もたくさんいる」と教えてくれました。

3

参加者・運営側の声

参加者の声

- とても楽しかったです。またやりたいです。
- 座ったままの鬼ごっこ、疲れたけど楽しかったです。
- シットイングバレーは少し難しかったです。
- 増子さんの銅メダルを触れて嬉しかったです。
- 佐藤さんや鈴木さんが打つボールが早くてびっくりしました。
- また子ども達にボッチャをやらせたいです。(担任の先生)

運営者の声

- 障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会との連携により、各回8名(クラブマネージャー含む)の指導者がいたので、グループ分けをして活動できたことが良かったと思う。
- 銅メダルを見て触れた時の、子ども達の『輝く瞳と笑顔』が最高でした。
- 運動量もあり、楽しみながら障がい者スポーツを体験させてあげられたので良かった。
- 障がいのある佐藤さん、鈴木さんと一緒に体験でき、お話も聞くことができたので子ども達の心に残る時間を提供できたと思う。

※藤野クラブマネージャーと藤代アシスタントマネージャーは、障がい者スポーツ初級指導者講習会を受講し資格を取得し、体験教室に臨みました。同資格と今回の経験を基に「今後の障がい者スポーツの活動に生かしたい」と語っています。

4

今後の展望

- 地域の障がい者の方がスポーツを楽しめる環境をつくっていききたい。
- 小学生に限らず、地域住民に対しても、障がい者スポーツを体験できる機会を増やしたい。
- 今後も障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者連絡協議会との連携を図りながら、様々な事業を展開していきたい。当クラブとしても、各団体に協力していきたい。

(いわしろふれあいスポーツクラブ クラブマネージャー 藤野 美緒)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年5月16日

所 在 地 福島県二本松市小浜字芳池1番地

特 徴 「心豊かな人づくり、笑顔あふれる地域づくり」を目指して活動しています。
 ・地域住民が余暇時間を有意義に過ごすことで、心の豊かさと気持ちにゆとりがある。
 ・地域の誰もが気軽に楽しく参加し、気の合う仲間、同じ趣味を持つ仲間とクラブライフを楽しんでいる。
 ・会員自らがクラブを育て、会員自らが笑顔で活動し続けている。

連絡先 〒964-0313 福島県二本松市小浜字芳池1番地(岩代公民館内)
 TEL 0243-55-2260 FAX 0243-55-2070
 E-Mail iws.shogaigakushu@city.nihonmatsu.lg.jp



4年生の授業で、パラリンピック公式教材I'm possibleを使用した講義。
 講師は、福島県障がい者スポーツ協会の増子恵美さん。



シットイングバレーを体験。
 学年によってボールを変えたり、ルールを優しくしたりして試合を体験。



ボッチャを体験。チーム戦で試合を体験。
 接戦を繰り広げていました。



3・4年生はシットイングゴロバレーを体験。
 担任の先生も一緒にプレー。



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜福岡県福岡市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 研修会 「クラブの引き出しを増やす」 ～障がい者スポーツを知る・体験する～

実施日時	平成30年1月20日（土）13:30～
実施会場	福岡県立北九州視覚特別支援学校
参加者数	39人
指導・助言	福岡県総合型地域スポーツクラブ育成委員会
主 管	福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会



1 企画経緯

健全者も障がい者も一緒に体験する機会創設が目的

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会では、クラブを取り巻く多様なニーズや社会課題の解決に向け、クラブ関係者の情報交換及び連携を目的に毎年研修会を開催しています。

第2期スポーツ基本計画によると、週1回のスポーツ実施率で健全者が42.5%であるのに対して、障がい者は19.2%となっています。こうした状況を踏まえ今回は、私たち総合型クラブが、地域スポーツの担い手として、障がいの有無にかかわらず、誰もが身近な場所で気軽にスポーツを楽しめる存在となれるよう、まずは障がい者スポーツを『知る』、そして『体験する』研修会を開催することとしました。

他クラブ、パラリンピアンに協力を要請

実施にあたっては、総合型クラブとして、昨今の関心が高まっている障がいの有無にかかわらず一緒にプレーできる『インクルーシブスポーツ』の普及を目指したいとの思いから、既に障がい者スポーツに取り組んでいるクラブやパラリンピアンに講師や用具使用の協力をお願いすることとしました。

また、福岡県の協力により、今後の障がい者スポーツの活動の拠点として現状を認知すること兼ねて、会場は特別支援学校を使用することとなりました。

2 研修内容

【パラリンピアン講話】

「パラリンピアンとして総合型と関わって」

岩崎 満男 氏

(バルセロナ・パラリンピック車いすテニス日本代表)

＜講話趣旨＞

障がい者スポーツの普及には、
総合型地域スポーツクラブが障がい者スポーツに
介入し、広めていくことが必要不可欠



【講義・演習】

競技用車いすの使い方・管理の仕方について

井手 浩 氏(桜花台クラブ)

＜講義・演習内容＞

競技用車いすの基本的な取り扱い方、
メンテナンスの仕方、安全な使い方について



【演習】=障がい者スポーツ体験

競技用車いす操作&車いすバスケットボール



3回車輪をこぐ間に1回ドリブルをつくことができるルールで実施

ボッチャ



ルールや投げ方、攻め方など、ゲームを楽しむためのポイントを演習

サウンドテーブルテニス※



ボールが転がってくる音に、瞬時に判断して打ち返すことの困難さを実感
集中力が問われる競技

ブラインドサッカー※



ブラインドサッカークラブの選手が指導
視覚からの情報がなく、音で判断することが大変
仲間とのコミュニケーションが鍵

※NPO法人北九州スポーツクラブACEに所属する視覚障がいの指導者による実技指導

アキュラシー

ルールやゲーム方式を説明し、指導上の留意点も確認

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後) ※アンケートから

「百聞は、一見にしかず」という言葉があるが、そのことを本当に実感することができた。実際に耳にはするが、やってみないと分からないし、覚えない。障がい者スポーツを体験することで、これだけ苦しいのだということも感じることもできた。共生社会の実現に向けて、困っている人は助けるということを、これから改めて実践していこうと思う。。

運営者の声(実施後)

今回の研修で、これまで聞いたことしかなかった障がい者スポーツを、実際に見て、経験できたことで、スポーツの楽しさや難しさを改めて実感することができました。また、今回参加していただいた皆さんにも、このスポーツの持つ力を感じていただけたのではないかと思います。

私たち総合型クラブが、それぞれの地域において障がい者スポーツを推進するためには、実施設場所や用具など多くの課題も山積しています。だからこそ、地域や行政をはじめ競技団体・民間企業などと連携して活動の充実を図ることが必要なことだと感じました。

4 今後の展望

平成23年8月に施行されたスポーツ基本法には、「障害者の自主的かつ積極的なスポーツを推進する」との理念が掲げられています。（「障がい者スポーツ」という言葉はありません）

そこで、私たち総合型クラブは、地域の子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず全ての人に参加してスポーツを楽しんでいただけるよう、さまざまなスポーツプログラムの準備ができるよう取り組んでいきたいと考えます。

また、これからは「障がい者のスポーツ」という壁をつくるのではなく、全ての人と一緒に自由に楽しめる「スポーツ種目」として普及に取り組み、継続して参加しやすい総合型クラブを目指していきたいと思います。

5 他団体へのアドバイス

総合型地域スポーツクラブに求められるものとして、今後は障がい者スポーツへの関わりが高まると考えます。先進的に取り組んでいくことが様々な道を切り開くことになると思います。

（公益財団法人福岡県スポーツ振興センター・連絡協議会事務局）



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

国際交流事例紹介



NPO法人ふれ・スポ・とうべつ ＜北海道石狩郡当別町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、「NPO法人ふれ・スポ・とうべつ」が実施している国際交流の事例を紹介します。

当別町・レクサンド市姉妹都市提携30周年記念事業 ～スポーツ交流～

実施日時	平成29年10月26日(木)～30日(月) ※スポーツ交流は29日(日) 13:00～15:00
実施会場	当別町総合体育館・あいあい公園
参加者数	150名(内訪問団60名)
主催	姉妹都市提携30周年記念事業実行委員会



1 企画経緯

スウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携30周年記念事業を開催するにあたり、上記実行委員会内にいくつかの部会が設けられ、文化・スポーツ青少年交流部会の部会長を、町体育協会事務局長兼当クラブ事務局長が務めることになりました。

2

実施内容

スウェーデン訪問団16名も参加し、武道・スポーツ吹矢を町民と一緒に体験

スポーツ交流では、あいあい公園を会場にパークゴルフ大会を開催し、訪問団16名と当別町民29名の計45名が参加し、コミュニケーションを取りながらプレーを楽しみ、訪問団からはホールインワンも出るなど大変盛り上がりました。

総合体育館では、日本の武道である弓道、剣道、柔道の見学、スポーツ吹矢の体験をしました。剣道では実際に竹刀を持ち、防具をつけた剣道連盟指導者に対して打ち込みをしたり、弓道でのゴムバンドを使った弓引きの模擬体験のほか、スポーツ吹矢では実際に的に向かって矢を放つ体験をして、矢が的に当たるたびに歓声が上がっていました。



レクサンド30周年記念事業
剣道体験で竹刀を持って打ち込み。気迫の一刀！



レクサンド30周年記念事業
弓道でゴムバンドで弓引き体験。静寂の中で真剣に取り組んでいます。



レクサンド30周年記念事業
日本発祥のニュースポーツ「スポーツ吹矢」で、忍者気分。日本の礼儀と作法を重んじる競技を体験。

2018年ワールドユースジャパン 国際・多文化交流プログラム内 ふれあいスポーツ国際交流

実施日時	平成30年7月16日(月) 13:00~15:00
実施会場	白樺コミュニティセンター
参加者数	米国人高校生3名、リーダー1名 ホームステイ受け入れ家族10名 キッズインターナショナル生(当別町内小学生)10名 講師3名
プログラム	
主催団体	米国NPO法人スチューデント・ディプロマシー・コア
国内受入団体	NPO法人ワールドユースジャパンとうべつ実行委員会
後援	当別町教育委員会

1 企画経緯

米国のNPO法人が将来有望な高校生を対象として実施している国際・多文化交流事業の受け入れ先の一つとして、当別町は4回目の受け入れとなります。体験交流事業の一つとして当クラブにスポーツ交流事業の開催を依頼され、実施することになりました。

2 実施内容

米国の高校生や町内小学生らがボッチャなど3競技を体験

当クラブ所属サークルの協力を得て、スポーツ吹矢、ボッチャ、フライングディスクの体験を行いました。3グループで30分ずつローテーションすることで、全員が全ての種目を体験することができました。また、ホストファミリーとの交流はもちろん、町内のキッズインターナショナルで英会話に親しむ小学生の参加もあり、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。



ワールドユースジャパン
フライングディスクを輪に投入する「アキュラシー」競技。
輪の中に入れるのは、中々の至難技です。



ワールドユースジャパン
パラリンピック競技のボッチャを体験。
ルールがわかるとゲームにも熱が入って、球の行方に
一喜一憂でした！



ワールドユースジャパン
スポーツ吹矢を体験。
筒を吹いて矢が的に当たる瞬間は気分も爽快！

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

姉妹都市交流で武道を体験した参加者からは、これまで関心はあっても実際に競技に触れたのが初めてだったため、「大変感激した」との感想を頂きました。また、スポーツ吹矢は「忍者」を連想するらしく、思いがけないところで日本らしさを感じてもらえた様子でした。

スポーツは、多少言葉が通じなくても身振り手振りでルールなどを伝えることができます。また、できた喜びなども共有できることから、どの事業の参加者からも「楽しかった！」という声を多く聞くことができました。

運営者の声(実施後)

最初に国際交流のお話を頂いたときは、正直言葉の壁などから抵抗を感じていましたが、何度か受け入れをさせて頂くうちに、参加の方々が喜んでくれる姿がとても励みになりました。

交流事業の中には、文化交流や伝統芸能に関するものもありますが、一緒に汗を流し楽しむことができるスポーツ交流が一番喜ばれていたのではないかと感じます。

競技のノウハウが国際交流に生きる

当クラブは障がい者スポーツの指導者養成や活動支援にも力を入れて取り組んでおり、ボッチャやフライングディスクなど、誰でも簡単に取り組むことのできる競技のノウハウがあったことが、国際交流事業のスムーズな受け入れにつながったと感じています。

今後も、自分たちの取り組みに自信を持ち、国際交流に限らず様々な要望に対し、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

地方で東京2020大会を盛り上げるために

(長谷川敏NPO法人ふれ・スポ・とうべつ事務局長より)

東京オリパラの実態を知ってもらうことが一番だと思います。東京都内に限らず、地方の学校でもオリパラに関する授業を行うなどの取り組みが必要です。クラブからどんなにオリパラを発信しても周知には限界があります。学校・職場に関係者が入り込んで、具体的にアピールするような環境で実態を知ってもらえるような仕掛けがあればと感じています。

当別町総合体育館はウィルチェアーラグビーの練習会場となっており、実践さながらの迫力ある練習が行われています。ハイレベルの選手が身近で練習していることをもっとPRすることもある必要のあることと思います。

(北海道体育協会クラブアドバイザー 熊耳 雅美)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成22年3月22日（法人格取得）平成26年6月13日

所在地 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地

特徴 平成28年度より総合体育館ほか2施設の指定管理を受け、「いつでも、どこでも、だれでも」をモットーに各種スポーツ事業を展開する中、「ふれスポ」の愛称が町民にも浸透してきました。
体力や身体能力の向上を目的に、スポーツ好きな子供の育成とバドミントンや水泳など技術向上を目指すメニューのほか、マナーキッズプログラムを教育委員会と連携のもと、小学校に導入し礼儀と体幹運動の大切さを子供たちに伝えています。
フィットネスや健康づくりメニューの提供やトレーニングマシンの充実で、これまで総合体育館とは無縁だった町民も参加する機会が増えています。
障がい者スポーツに関しては、ボッチャやフライングディスクで全国大会に選手を輩出するほか、健常者や子供、高齢者等のスポーツ交流においても一緒に楽しむ機会を提供しています。

連絡先 〒061-0233 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地 当別町総合体育館内
TEL 0133-22-3833 FAX 0133-22-3832
E-Mail info@tobetsu-gym.jp



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事例紹介



しろやま倶楽部 ＜東京都世田谷区＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、東京都世田谷区の「しろやま倶楽部」が実施しているオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

「オリンピック・パラリンピックプログラム」の概要

しろやま倶楽部フェスティバル

（フェスティバルの中でオリンピック・パラリンピックプログラムを実施）

実施日時	第 10回 平成28年10月23日（日） 11回 平成29年12月 3日（日） 12回 平成30年10月28日（日） * 今年度の詳細は こちら から
実施会場	世田谷区立城山小学校
実施競技	第10回 陸上（藤光選手と走ろう！！） 11回 空手道演武 ポッチャ 12回 空手道演武 ポッチャ
フェスティバル参加者数	第 10回 約600名 11回 約800名 12回 約800名（予定）
主 催	しろやま倶楽部
協力団体	（公財）東京都スポーツ文化事業団、世田谷区、（公財）世田谷区スポーツ振興財団、城山小学校、国士舘大学、梅丘地区町会自治会連合会、世田谷区スポーツ推進委員協議会、梅丘地区社会福祉協議会ほか
協賛団体	梅丘・豪徳寺・山下・世田谷駅前・松陰神社通り松栄会の各商店街振興組合、国士舘大学ほか

1

企画経緯

平成19年に世田谷区4番目の総合型地域スポーツクラブとして北沢地区に「しろやま倶楽部」が設立され、当初、8種目開設から始めた活動クラブは空手道、健康体操、親子体操、フットサルなど17種目になりました。日常生活の中でスポーツや文化活動に親しみ、その活動を通して子どもから高齢者まで誰でも、いつでも気軽に楽しめ、健康で生き生きと充実した生活を送れることを目指しています。

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックの開催が決まり、倶楽部内で「何かオリンピック・パラリンピックを盛り上げるイベントができないか」という声が出て、しろやま倶楽部が平成19年から主催している「しろやま倶楽部フェスティバル」の中でイベントを展開しようという機運が高まりました。

平成28年の第10回フェスティバルで初めてオリンピック・パラリンピックプログラムを実施、リオデジャネイロ・オリンピック陸上男子200メートル日本代表の藤光謙司選手をお招きし、「藤光選手と走ろう！！」を企画いたしました。当日は小学生から大人まで約100人が参加し、藤光選手と一緒に走る体験をしていただきました。

また、平成27年7月から空手道クラブを開設しており、2020年の東京オリンピック競技に空手が採用されたことから、昨年の第11回フェスティバルで空手道の体験会だけではなく、演武発表実施、「形」「組手」競技の紹介を行いました。さらにパラリンピック競技の実施も検討し、子どもから高齢者まで一緒に競技を楽しめるボッチャを採用しました。

2

企画内容

空手道クラブで指導している大学空手部員が演武を披露

空手道クラブを立ち上げた当初の参加者は7～8人でしたが、約3年が経ち、現在は50人を超える人気クラブに発展しています。国士舘大学職員の大木陽悦さんが熱心に指導にあたり、同大学の空手部員にも協力いただいております。昨年のプログラムでは大学空手部員3名による空手道演武を披露していただき、多くの来場者の方々に空手の魅力を感じ取っていただけたと思っています。

演武を指導していただいている大木さんは「オリンピック競技に空手が採用されたので、世田谷で空手を広めたい気持ちでやっています。以前は空手の知名度は低かったのですが、最近ではメジャーになりつつあります。誰でも参加できる環境になっているので、サッカーや柔道などの人気競技の仲間入りができたような気がします」と笑顔で語ってくれました。倶楽部のフェスティバルを通して、空手愛好家がさらに増えることを期待しています。

幅広い年齢層がボッチャを体験、今年は障がい者も参加予定

ボッチャの存在はリオパラリンピックをきっかけに知られるようになりましたが、リオの前から世田谷区内では、スポーツ推進委員の方の発案でボッチャ体験会が実施されていました。その後、北沢地域のスポーツ推進委員の方から「倶楽部としてニュースポーツを展開しているなら、ボッチャをやってみたら」とお声掛けいただき、クラブ間会員交流として実施し、フェスティバルでも実施に踏み切りました。

狭いエリアで幅広い年齢層の方々が一緒に楽しめるボッチャは、フェスティバルのイベントに最適でした。自由参加形式を採ったところ、多くの子どもたちがボッチャを自ら体験し、年配の方々にも積極的に参加していただきました。

フェスティバルでは、社会福祉協議会とも連携し車いす体験を進めています。

第12回の今年は、地域のデイサービス事業を行っている団体、作業所にもお声掛けしています。車椅子を利用されている方にもぜひ体験していただきたいと思っています。

フェスティバルでは、障がいの垣根を外して、子どもから高齢者まで一緒にボッチャを楽しんでいただけることを願っています。

3 第11回フェスティバル参加者・運営側の声（ボッチャ）

参加者の声（実施後）

- 家族で楽しめました。（30歳母親）
- みんなで協力することができて良かった。（小学校3年生女子）
- 年齢・性別に関係なくチームでプレーできるところが良い。（70歳代男性）
- 来年もフェスティバルに行きたい。（小学校1年生男子）
- 楽しそうでしたね。（教員）

運営者の声（実施後）

- 地域のみなさんの交流の場になっている。
- 人と人との関わりが広がっている。
- ボッチャは誰がやっても「楽しい」と言ってくれる。

4

倶楽部として東京オリパラを応援

オリンピック・パラリンピックプログラムを開始するにあたって、特段苦心することはありませんでした。当倶楽部の采澤睦子会長の言葉を借りますと、「あれこれ考えず、みんなでやれば何とかなるみたいな感じでやっておりますので、苦労したというような感覚はありません」。倶楽部スタッフみんなで協力し合って、フェスティバルの運営ができています。

空手とボッチャの実施は今年で2回目ですが、来年以降もこの2競技はオリンピック・パラリンピックプログラムとして続けていく予定です。東京2020大会に向け采澤会長は「オリンピックとパラリンピックで空手会場とボッチャ会場のスタンドがいっぱいになるよう、倶楽部として応援・働きかけをしていく必要があります」と熱く語っています。

今回メールマガジン執筆の機会をいただき、オリンピック・パラリンピックムーブメントへの貢献に弾みがつきそうです。当倶楽部のプログラムに興味を持たれた方々のご来場を心よりお待ちしております。

(しろやま倶楽部 事務局長・クラブマネジャー 篠崎 律子)

クラブ プロフィール

設立年月日	平成19年3月10日
運 営	会員数416名(平成30年月5月末現在)、予算規模235万円(平成29年度)
特 徴	城山小学校を主な活動拠点とし、地域の人たちのスポーツ・文化活動を通して「児童・生徒の健全育成」と「豊かな地域コミュニティの形成」を目指す活動を目的としています。
活動クラブ数	17クラブ(運動系12、文化系5)
活動場所	世田谷区立城山小学校、世田谷中学校、山崎小学校、ほっとスクール城山
事 務 局	〒154-0023 東京都世田谷区梅丘2-1-11 区立城山小学校内
連絡先	TEL/FAX 03-3428-1482 E-Mail info@shiroyama-club.org



ボッチャにトライ！



国士館大学生による迫力の空手道演武



空手クラブの子どもたちとバチリ！



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事例紹介



岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜岩手県盛岡市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

平成29年度スポーツボランティア研修会 兼 第3回岩手県総合型地域スポーツクラブ運営研修会

実施日時	平成30年3月3日（金）
実施会場	滝沢市総合公園体育館
参加者数	25人
主催	岩手県体育協会 岩手県広域スポーツセンター 岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会



1 企画経緯

ビッグイベントに向けスポーツボランティアを強化

岩手県広域スポーツセンターでは、国体、ラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）等スポーツのビッグイベントを見据え、平成26年にスポーツボランティアシステムを構築し、総合型クラブを中心に、「希望郷いわて国体・いわて大会」のPR（プレ大会でのパンフレット配布、マスコットキャラクターの着ぐるみを着用して応援等）を行いました。本大会でも登録者には運営ボランティア等として活躍していただき、国体の成功と、レガシーとして今後につながる成果を残すことができました。

しかし、国体終了後は活動の場が減り、ボランティア熱が冷めかけておりましたが、ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会に向けて、スポーツボランティアを活性化させるべく、総合型クラブ運営研修会ではありましたが、クラブ関係者だけでなく、ボランティア登録者や学生など広く県民にも受講していただけるよう、スポーツボランティアをメインタイトルとして研修会を実施することになりました。

障がい者スポーツへの理解

昨今、総合型地域スポーツクラブでも障がい者の受け入れが求められており、パラリンピック等障がい者スポーツも盛んに行われ、障がいへの理解も高まっているため、健常者のスポーツだけに限らず、障がい者のスポーツにも焦点を当てることとしました。そこで、岩手県障がい者スポーツ協会を通じて、長野県障がい者福祉センター「サンアップル」から講師を紹介していただき、障がい者スポーツへの取り組み、ボランティアの必要性について講義していただきました。

参画プログラムとして実施した経緯

当研修会を参画プログラムとすることで、県として、総合型クラブとしても東京2020大会を応援していることを県民にも理解していただけるのではないかと考えました。この活動自体、知らない方や気付かない方も今はいると思いますが、地道な活動が今後の動きにつながるため、今後も継続し、スポーツに対する機運をさらに高め、本県のスポーツ振興、総合型クラブの発展にもつなげていきたいと考えました。



【ラグビーワールドカップ2019の説明】

「ラグビーワールドカップ2019の釜石開催に係る取り組みについて」

松崎 雄一 氏（岩手県文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進課 総務企画担当課長）

《内容・趣旨》

大会概要、開催に向けた取り組み、経済効果、ボランティアの種類・内容・募集スケジュール、県民が実際に行えるボランティアの内容等説明していただき、研修会に参加された方々がさらに興味を持ち、「できそう」、「やってみよう」と思えるような内容でした。



【ボランティアについて情報提供】

「『東京2020大会に向けたボランティアシンポジウム～ボランティアの本質を探る～』の伝達」

中島 昭博 氏（岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課 上席スポーツ振興専門員）

《内容・趣旨》

東京で行われたボランティアシンポジウムの内容について、ボランティアを受けた側の視点、ボランティアをする側の視点からの意見等、情報提供をしていただきました。また、「東京ボランティアナビ」に掲載された、岩手県広域スポーツセンターの取り組みや、スポーツボランティアシステムについても紹介していただきました。



【スポーツボランティアの活動紹介】

「スポーツボランティアの魅力とは ～スポーツを地域住民の力で支えよう～」

齋藤 道子 氏（NPO法人うつくしまスポーツルーターズ 副理事長兼事務局長）

《内容・趣旨》

スポーツボランティアに関わるきっかけ、活動内容の紹介、東京2020大会に向けた取り組み、スポーツボランティアに参加してもらう工夫等説明していただきました。同じ東北の活動として身近に感じ、とても参考になる内容でした。



【障がい者スポーツのボランティア】

「障がい者スポーツボランティアの実際について」

三浦 雄高 氏（長野県障がい者福祉センター「サンアップル」 スポーツ課主任指導員）

《内容・趣旨》

障がい者スポーツについて、活動紹介、障がい者スポーツでのボランティアの必要性、ボランティアに関わる上でのポイント等、理解しているようで理解できていなかったことが多く、改めて障がい者スポーツとそれに関わるボランティアへの関心が高まる内容でした。



3

参加者・運営側の声

参加者の声(実施後) ※アンケートから

- ・「スポーツボランティアとはどういうものか学ぶことができた」
- ・「ラグビーワールドカップ直前のタイムリーな内容で、さらに大会を盛り上げていきたいと思った」
- ・「行政だけでなく、民間の団体が活動していること、またその内容を知ることができて参考になった」
- ・「今後のボランティア活動に活かしていきたい」

上記のような感想をいただき、今回の内容をきっかけに、スポーツボランティアに対する意識が変わり、関わっていこうと思える内容になったのではないかと思います。

運営者の声(実施後)

各団体とも、ボランティアを募ることが難しいという課題があり、オリジナルグッズやTシャツなどの支給品を報償とするなど、試行錯誤をしてボランティアを集めていることが分かりました。しかし、総合型クラブでグッズ作成・無料配布となると厳しいところがあるため“報償”といった意味では集客力に欠ける部分があると思いました。ただ、「人材が足りない」というクラブの課題を解決するためにも、運営ボランティアを募ることが大事であると考えます。こうした運営ボランティアが活動の幅を広げてクラブを支え、将来的にビッグイベントを支える人になっていくと思いますので、地域から、クラブから、ボランティアを育てていくことが大事であると改めて感じました。

今回、クラブ関係者以外の方々にもご参加いただき、スポーツボランティア、総合型クラブについてもご理解いただけたと思いますので、今後も県民を巻き込んだ研修会を開催できればと思います。

4

今後の展望

地域が一体となり、「おもてなし」を大切に

スポーツボランティアは今後も需要が増えてくると思いますが、全員が関われるわけではありません。しかし、会場周辺のゴミ拾い、訪れた方々にクラブのプログラムに参加してもらうなど、自分たちでできる“お・も・て・な・し”があると思います。そして、何よりスポーツイベントを盛り上げることが一番だと思いますので、関連イベントの開催、地元選手の応援、パブリックビューイングなど、地域が一体となって関わっていければと思います。

来年、岩手県ではラグビーワールドカップが開催されますが、地元でもボランティアに関わる方、観戦できる方は多くありません。その分、総合型クラブが地域を巻き込んで、みんなが関わり、楽しめる環境をつくっていき、復興五輪でもある東京2020大会に向けても、岩手から盛り上げていきたいと思っています。

(岩手県クラブアドバイザー 小原 有晴)

■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画（アクション）し、そのアクションの成果を未来につなげていく（レガシー）ことを目指し「アクション＆レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

協議会 プロフィール

設立年月日 平成21年1月22日

所在地 岩手県盛岡市

特徴 本協議会は（公財）岩手県体育協会内に事務局があり、平成28年度からは岩手県広域スポーツセンター事務局も体協内に設置されたことで、総合型クラブへの支援体制が充実されました。協議会事業として「突撃！隣の総合型クラブ」（クラブ視察、スポーツ体験、情報交換等）、「プロジェクト事業」（各種勉強会、プログラム開発、マネジャー交流会等）の開催の他、岩手県や広域スポーツセンター、大学や企業と連携して各種研修会等も実施するなど、総合型クラブの支援に取り組んでいます。

連絡先 〒020-0133 岩手県盛岡市青山4-13-30
TEL 019-648-0400 FAX 019-648-1600
E-Mail yusei-o@iwate-sports.or.jp
Facebook <https://www.facebook.com/iwate.sportsclub/>



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人スポーツアカデミー ＜千葉県旭市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回はNPO法人スポーツアカデミーが実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

スポーツで元気いっぱい親子体験イベント サッカー体験教室

実施日時	平成30年10月8日（月・祝） 体育の日
実施会場	旭市総合体育館
参加者数	一般60名・小学生85名
主催	千葉県教育委員会
主管	NPO法人スポーツアカデミー



1 企画経緯

「東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)」としてイベント実施

「スポーツで元気いっぱい親子体験イベント」は、千葉県教育委員会が毎年10月に設定している「スポーツ立県ちば推進月間」に、総合型地域スポーツクラブが地元の小学校と連携し、親子のふれあいを通してスポーツに親しむきっかけとなる機会を設け、スポーツの推進を図ることを目的とするイベントです。スポーツアカデミーではこのイベントを毎年開催し、今年はサッカー体験教室を行うことにしました。

さらに今回は、このイベントを通じて、スポーツの楽しさ・達成感・感動などを親子で経験することで、よりスポーツが身近に感じられ、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック

競技大会(東京2020大会)への期待が高まるのではないかと、また、このイベントが地域の皆さんのスポーツするきっかけとなり、スポーツのある生き活きた社会が醸成されることが、東京2020大会の盛り上げに繋がるのではないかと考え、東京2020大会を応援する「東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)」のクラブのイベント第1弾として開催することにしました。



スポーツで元氣いっぱい 親子体験イベント

サッカー体験教室

10月8日・月・祝・日曜 主催 千歳市教育委員会
協力 スポーツアカデミー

親子体験イベント サッカー教室

日時 平成30年10月8日・月・祝・休日の日
9時30分～12時00分

会場 旭市総合体育館

持ち物 運動のできる服装・室内シューズ・飲み物
タオル・着替え等・ボール(持ち物の有)

内容 ○要約9時30分開始
○親子サッカー教室
○全面でサッカー対戦
○終了12時

参加費 無料

備考 *下記必要事項を記入し、9月25日・火・まで
送付ください。
*送付先は下記のとおりです。

お問い合わせ NO.1スポーツアカデミー
0479-627-8870
旭市・高松

スポーツで元氣いっぱい BIG

2019/10/20
旭市総合体育館
スポーツ・健康

*本イベントは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施します。

保護者氏名 _____ キリトリ

①お子様氏名 _____ 男・女 _____ 学校 _____ 小学校 _____ 年生

②お子様氏名 _____ 男・女 _____ 学校 _____ 小学校 _____ 年生

連絡先 ① _____ ② _____

2 実施内容

【東京2020応援プログラムとして】

- 東京2020大会への興味・関心を持っていただくように、開会式においてサッカーに関する歴史を話題にしました。
- 東京2020大会にボランティアとして参加する意義をお伝えしました。

【親子でサッカー体験教室】

- サッカーの基礎練習(運ぶ・止める・蹴る)
- 5 vs 5 のミニゲーム(大人も子どもも全員で参加)。



3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)※アンケートから

- ・ 思い通りにボールをコントロール出来なかった。
- ・ いっぱい体を動かして(走れて)楽しかった。
- ・ 最後のミニゲームで得点が出来て嬉しかった。
- ・ もっとサッカーをやってみたいと思うようになった。
- ・ こんなに運動をしたのは久しぶりで疲れました。
- ・ 足でボールを扱うことが、こんなに難しいとは思わなかった。

運営者の声(実施後)

ご参加いただいた方が楽しんでいただける様な内容を考え、ご提供させていただきました。サッカーの難しさや楽しさを体験されて、もっとサッカーがやりたい！と思ってもらえたら嬉しく思います。

4 今後の展望

東京2020応援プログラムを利用することで、クラブのPRに

イベントの開会式で、東京2020大会にボランティアとして参加する意義を話した結果、参加者の皆さんから東京2020大会のボランティアに参加するための手続きなどの質問をいただいたことから、東京2020大会に関心を持っていただく、きっかけになったのではないかと思います。また、東京2020応援プログラムとして実施したことで、クラブが「東京2020大会を応援しているクラブ」としてPRできたと思います。しかし、東京2020応援プログラムとしての事前告知をチラシ以外には行わなかったことや、イベントの内容が東京2020大会に特化したものではなかったことで、「東京2020大会を旭市から応援しよう」というきっかけとしては物足りなかったかもしれません。千葉県内でも一部の競技が行われるので、今後も東京2020大会を盛り上げるために、クラブの活動やイベントなどで東京2020大会に興味・関心を持ってもらえるような活動や、ボランティアへの参加の呼びかけなどを継続して行っていきたいと思っています。

(NPO法人スポーツアカデミー 広報担当 辻秀憲)

■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画（アクション）し、そのアクションの成果を未来につなげていく（レガシー）ことを目指し「アクション＆レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

クラブ プロフィール

設立年月日 平成17年7月1日

所在地 千葉県旭市

特徴 小・中学生を対象に、サッカー・バレーボール・陸上競技・体操の4種目を実施し、競技力を高める選手コースと、楽しく取り組むサークルコースで活動をしています。totoの助成により、各種スポーツ事業の展開・クラブハウスの設置・マイクロバスの所有といった、ソフトとハードの両面で充実させることができています。また平成29年度より、毎月様々な競技に取り組む「チャレンジスポーツ教室」を実施し、各競技の基本技術の習得はもちろんのこと、気軽にスポーツの楽しさを体験する良い機会として参加していただいています。一方、地域交流（サポート）事業として、保育園でのサッカー教室、デイケアセンターでの軽スポーツの実施などにも取り組んでいます。今後も総合型地域スポーツクラブとして、多くの人にスポーツを行う環境を提供し、一人一人がスポーツに親しむことのできる社会の実現、地域コミュニティづくりの推進による社会生活の実現に取り組んでいきます。

連絡先 〒289-2504 千葉県旭市ニ5863-9 アカデミークラブハウス
TEL 0479-62-8870 FAX 0479-74-7270
E-Mail info@spo-aca.jp
URL <http://www.spo-aca.jp/>



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント



beyond2020マイベストプログラム 2020年7月24日時点のマイベスト目標を立ててみませんか？



この度、政府において2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年東京大会」という。）の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指した「beyond2020マイベストプログラム」が始まりました。このプログラムは、2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指す個々人の取組に対する認証プログラムです。クラブがこのプログラムを活用することで、地域住民や団体の認知度向上などにつながる可能性も期待されます。

そこで、今回は、このプログラムの概要や申請方法について紹介します。

●beyond2020マイベストプログラムとは

2020年東京大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン

「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト

「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

「beyond2020マイベストプログラム」とは、この基本コンセプトの1つ「全員が自己ベスト」を踏まえ、大会に参加するアスリートだけでなく、一人ひとりが2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指して行動変容に取り組む環境を提供するため、「自己ベスト」を目指す個々人の取組を支援する事業・活動を認証するものです。「beyond2020マイベストプログラム」として、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が認証します。

対象事業・活動

(1) 個々人によるマイベスト目標の設定及び当該目標の達成に向けた行動を支援する事業・活動であること。

※マイベスト目標とは、健康面等でより最適な状態を目指すために個々人が**2020年7月24日時点**での目標として設定するものをいう。

(2) 個々人が(1)の行動を継続するための工夫を取り入れた事業・活動であること。

東京オリンピック
競技大会が開幕する日

対象者

- ① 国の行政機関(独立行政法人、特殊法人及び認可法人を含む。)
- ② 地方公共団体(特別区、一部事務組合及び広域連合、地方独立行政法人を含む。)
- ③ 国立大学法人及び学校法人
- ④ 公益法人又はこれに準ずる団体
- ⑤ 株式会社等その他法人格を有する団体
- ⑥ ①から⑤までに掲げる者に準ずると認められる団体

総合型クラブも法人格の有無を問わず申請できます！

認証されると...

beyond2020マイベストプログラムのロゴマーク(※)が使用できます。

※近々、公表予定

●beyond2020マイベストプログラムとして考えられる取組例 (※あくまでも例示です)

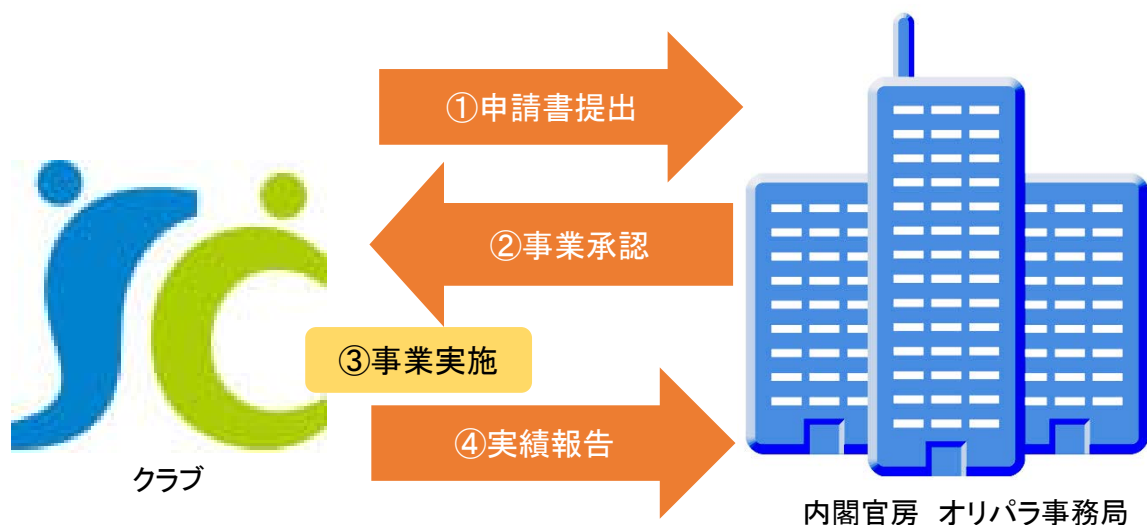
運動目標を立てよう！

個人の目標	個人の目標を支えるクラブの取組
2020年7月24日までに10km走れるようになる	→ ・定期的なランニング教室の実施 ・半年に1度10km走チャレンジイベントの実施
2020年7月24日までにリフティング連続50回できるようになる	→ ・サッカー教室で、リフティングを指導 ・月に1度リフティング測定会を実施
2020年7月24日まで継続して2週間に1回クラブのプログラムに参加する	→ ・各会員のプログラム参加状況スケジュールの作成
2020年7月24日まで継続して毎日1万歩歩く	→ ・各会員歩数グラフを作成 ・クラブ会員の合計歩数・km数グラフを作成、クラブでの合計移動距離の目標(地球1周分等)設定

健康目標を立てよう！

個人の目標	個人の目標を支えるクラブの取組
体重や体脂肪率の目標数値を立てる	→ ・運動プログラムの提供 ・月に1度測定会を実施

●申請手続きについて



※認証申請方法及び様式は、以下のホームページよりご確認ください

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond_mybest/index.html

●総合型クラブの日々の取組がレガシーになる

beyond2020マイベストプログラムに認証された事業は内閣官房のホームページに掲載される予定です。また、認証された事業はロゴマークが使用できることなどから、今までクラブと接点がなかった地域住民や地域団体に対する認知度の向上など、クラブに有益となる効果も期待されます。

また、クラブ会員が、クラブの実施するマイベストプログラムに参加することで、一人ひとりが2020年東京大会への参加意識を持つことができます。さらに、このプログラムをきっかけに一人ひとりが目標に向けて行動し、2020年東京大会後もこの取組を継続することがレガシーとなります。

全国の総合型クラブが「beyond2020マイベストプログラム」に申請することにより、2020年東京大会への機運醸成への大きなムーブメントとなるとともに、総合型クラブの存在が大会コンセプトにある「未来への継承」につながる可能性もあります。ぜひ、クラブのみなさんで、2020年7月24日の自分のなりたい姿・目標を立て、それに向けて取り組んでみましょう！